

園だより

第 7 号 2019年9月30日



ばんけい幼稚園

子どもの成長の証^{あかし}を受けとめる努力を！

副理事長 矢 嶋 一 昭

わが子の成長に思う「子育ての難しさ」

わが家には、33歳の長男、30歳の次男がおります。二人とも、家を離れ、つれあいを見つけて自力で生活しています。先日、もいわ幼稚園を訪問した際に、長男の担任をしていただいた先生に偶然お会いできて、昔を懐かしんでおりました。

そんなこともあって、ばんけい幼稚園の子どもたちを見ながら、二人の息子の幼児期・幼稚園・小学校時代を思い出していました。

見守らずに、結構、口を出していたなあ、叱っていたなあ…と。

起きる時刻から始まり、寝る時刻まで親の価値観で口うるさく言っていました。中でも口のきき方については、よく叱っていたなあと思えます。

息子たちが生まれたころ、幼児時代を思い出してみると、ちょっとした成長を喜んでいたものでした。発声から始まり、寝返り、はいはい、つかまり立ちなどなど。短い期間に次から次へと成長の過程をクリアしていきました。成長が目に見えて明らかですから、親としては嬉しいわけです。

お子さんが大きくなるにつれて成長が見えていますか？

幼児～園児～小学生時代を比較してみると接し方に違いがあることに気が付きました。

その原因の一つに、子どもが大きくなるにつれて成長が見えづらくなっているということです。「元気に幼稚園に行く」「友達と遊ぶ」「虫をつかまえる」「本が読めたり、計算ができたりすることは、ごくあたりまえのこと。」というような思い違い（大人の見方）を親がしているわけです。ですから、子どもの成長に気付くことができないのです。しかし、よく考えてみると、本人なりの努力の結果として、そうした能力を身に付けているのですから、それは、立派な成長の証なわけです。



自立し始めたお子さんを受け止めてください！

また、別の要因として自立し始めた子どもを理解しきれてないということがあります。「言うことを聞かなくなった。生意気になった。」という見方が多いということです。しかし、そうした自己を主張できるように成長したわが子の姿に気づいていないだけのことなのです。そうしたことが多々あるのです。それは、わが子に対する親の願いや期待がそうさせているのかもしれませんが、「あなたのためでしょ。」とつい小言を言いたくなるものです。いずれにしても、子育てで反省すべきことが多くあるものでした。

それと同時に自分の親たち（お子さんにとっての祖父母）は、私をどう育てたのか、あらためて振り返ってみる、聞いてみるのも一つの方法かもしれませんね。

そんなことを息子たちを思い出しながら昔を懐かしんでおりました。どうぞ、保護者の皆さんもばんけい幼稚園で活躍するお子さんの成長の証をしっかりと受けとめてください。